

『潮騒』のモデルになった灯台長家族に贈られた  
書簡・オルゴール初公開



# 『潮騒』 の人々



三島由紀夫文学館 展示室にて  
平成30年5月15日(火)～10月14日(日)

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296

TEL:0555-20-2655 FAX:0555-20-2656 E-mail:info@mishimayukio.jp

- ◆開館時間:10:00～16:30 (最終入館 16:00)
- ◆休館日:月曜日(祝祭日の場合はその翌日)、12月29日～翌年1月3日、資料点検日(不定期)  
(但し、4月28日～5月6日は開館)
- ◆入館料:大人 500円 高校・大学生 300円 小・中学生 100円  
※三島由紀夫文学館・徳富蘇峰館共通チケット ※10名様以上から団体料金(50円割引)
- ◆主催:山中湖文学の森 三島由紀夫文学館、山中湖村教育委員会
- ◆協力:山下悦夫、竹林文代、鳥羽市観光課

常設展示内に特集展示

次回の特集展示は、  
10月16日(火)～  
を予定しております。  
ご期待ください!!



# あれからおおよそ60年・・・ 三島由紀夫と灯台長の再会・・・



▲新潮社 1954年(昭和29年)  
6月10日 初版  
「第1回新潮社文学賞」受賞

## 『潮騒』とは・・・

三島由紀夫8作目の長編小説。舞台は三重県の離島「神島」。漁夫 新治と海女 初江が様々な困難を乗り越え、恋愛が成就するまでを描いています。

これまで三浦友和、山口百恵をはじめとする数々の俳優陣によって幾度となく映画化されるなど、今なお色褪せることのない、三島作品を代表する不朽の名作。



▲『潮騒』の登場人物、灯台長のモデルとなった山下家の家族へ三島が贈ったオルゴール



▲『潮騒』直筆原稿



▲『潮騒』のアメリカ翻訳本  
『The Sound of Waves.』  
訳 メレディス・ウェザビー

## ごあいさつ

『潮騒』には灯台が描かれ、灯台長夫妻と東京の大学に行っている娘が登場します。

娘の千代子は都会的な自意識を持つ少女で、主人公の新治と初江の仲を祝福できません。

灯台長は新治を気かけ、奥さんは新治と初江の仲を取り持ってやります。

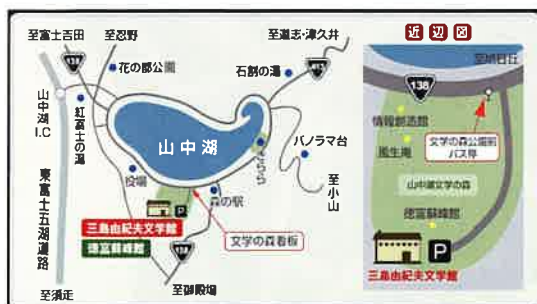
丸ごと三島由紀夫の想像力が作った美しい島の物語だと思われていた『潮騒』にモデルになった人たちがいました。灯台長の山下四郎さんと妻の當重さん、その娘の文代さんです。この方々への三島由紀夫の手紙を、息子の山下悦夫さんが大切に保管していました。この未発表の書簡を中心にして、今回の展示は企画されました。

『潮騒』は、雑誌連載を経ずに書き下ろし単行本として1954年(昭和29年)に新潮社から刊行されました。

すぐに映画化され、ベストセラーになり、アメリカで翻訳されてこれもベストセラーになりました。映画化は5回なされました。

はじめから完成された作品として世に出た『潮騒』を、その成立の過程さかのぼに遡って展覧しようというのが今回の展示です。三島由紀夫29歳の若々しい創作活動を感じ取ってください。

館長 佐藤秀明



### ▼交通案内

路線バス：富士山駅から25分 御殿場駅から40分

文学の森公園前バス停下車徒歩5分

高速バス：中央高速バスで旭日丘バスターミナル下車徒歩15分

マイカー：山中湖I.C. から国道138号線を御殿場方面へ4km



三島由紀夫文学館

検索

